

[前画面へ戻る](#)

④ 科目名	応用言語学B
④ 科目名(英訳)	Applied Linguistics B
④ 科目ナンバー	HF332E11
④ 詳細情報	授業外学修時間:週4時間
④ 担当者 (非)は非常勤講師	三上 仁志
④ 単位数	2
④ 開講学年	2年
④ 開講セメスター	秋期毎週
④ 対象学科 選択・必修	必修: 選択:HF
④ 他学科受講	
④ 履修順序・履修情報	
④ 担当者及び時間割	
④ カリキュラムの中での位置付け /DP(ディプロマ・ポリシー)	2年秋学期に開講される。言語学習と言語教育の基本理論とその応用を学ぶ科目である。外国語学習者として言語に関連する様々な分野の研究やトピックスに親しみ、知識を今後の外国語習得に役立てる。 【ディプロマ・ポリシー(DP)】2024年度入学生以降対象 ②:○ ③:◎
④ 身につく基礎力 / 身につく汎用力	傾聴・受信力 自己理解力 / 専門的知識・技能 学び続ける能力 実行力

④ 授業の主旨 (概要)	<p>※応用言語学Aが履修「済」であることが望ましい(応用言語学Aが未履修でも、本講義の履修自体は可能)。 この授業の目的は、 (a)「特定の目的のための英語」という視点から英語学習を捉え、 (b)特定の目的を達成するために用いられる教育法について学び、 (c)教育の結果の成否を判別するための技能を身につけることである。</p>	
④ 具体的 達成目標	<p>以下を達成目標とする: 受講者が、自分の言葉で応用言語学に関する理論や仮説を説明できるようになる。</p>	
	1	<p>【内容】【第1回】イントロダクション:授業のルールブックの配布と、その内容説明。 【授業外学習】なし</p>
	2	<p>【内容】【第2回】特定の目的のための英語(1)ニーズ分析 【授業外学習】特定の目的のための英語(1)ニーズ分析の内容を自分の言葉でまとめる。</p>
	3	<p>【内容】【第3回】特定の目的のための英語(2)学習者ニーズ 【授業外学習】特定の目的のための英語(2)学習者ニーズの内容を自分の言葉でまとめる。</p>
	4	<p>【内容】【第4回】特定の目的のための英語(3)オブジェクティブ・ニーズ 【授業外学習】特定の目的のための英語(3)オブジェクティブ・ニーズの内容を自分の言葉でまとめる。</p>
	5	<p>【内容】【第5回】英語教育法(1)PPP 【授業外学習】英語教育法(1)PPPの内容を自分の言葉でまとめる。</p>
	6	<p>【内容】【第6回】英語教育法(2)TBL</p>

④ 授業計画	7	【授業外学習】 英語教育法(2)TBLの内容を自分の言葉でまとめる。 【内容】 【第7回】英語教育法(3)CLIL	
	8	【授業外学習】 英語教育法(3)CLILの内容を自分の言葉でまとめる。 【内容】 【第8回】言語能力の測定と評価(1)妥当性	
		【授業外学習】 言語能力の測定と評価(1)妥当性の内容を自分の言葉でまとめる。 【内容】 【第9回】言語能力の測定と評価(2)信頼性	
	9	【授業外学習】 言語能力の測定と評価(2)信頼性の内容を自分の言葉でまとめる。 【内容】 【第10回】言語能力の測定と評価(3)実用性	
		【授業外学習】 言語能力の測定と評価(3)実用性の内容を自分の言葉でまとめる。 【内容】 【第11回】応用練習:グループワーク(1)プランニング	
	11	【授業外学習】 応用練習:プランニングの内容を自分の言葉でまとめる。 【内容】 【第12回】応用練習:グループワーク(2)データ採り	
		【授業外学習】 応用練習:データ採りの内容を自分の言葉でまとめる。 【内容】 【第13回】応用練習:グループワーク(3)データ分析	
	13	【授業外学習】 応用練習:データ分析の内容を自分の言葉でまとめる。 【内容】 【第14回】応用練習:グループワーク(3)データの解釈	
		【授業外学習】 応用練習:データの解釈の内容を自分の言葉でまとめる。 【内容】 【第15回】応用練習:プレゼンテーション	
	15	【授業外学習】 なし	
	④ 授業方法	講師によるインストラクションに加えて、グループディスカッションを積極的におこなう。 特に指定の教科書はなく、配布資料などを使用して授業をおこなう。 授業で理解度テストを実施する。テストの得点と模範解答は、終了後にTora-Net CoursePowerで公開する。	
	④ 成績の評価方法	達成目標(a) 応用言語学についての幅広い知識を身につけること 評価方法 定期テスト(50%) 達成目標(b) 応用言語学についての幅広い知識を自分の言葉で表現できるようになること 評価方法 授業内ペアワーク(30%)、最終授業でのプレゼンテーション(20%)	
	④ 成績の評価基準	(1)+(2)+(3)の合計が、60点以上であれば合格とする。 (1) 授業内ペアワーク:ペアワーク中の発言内容などから判断する(30点) (2) 定期テストの点数(50点) (3) プレゼンテーション:情報の正確さ、構成、テーマの新規性の3点から評価する(20点) 授業内での私語や、その他授業の円滑な進行を妨げる行為は、別途減点対象とする。	
	④ 教科書		
④ 参考文献			
④ 備考	初回の授業で授業ルールブックを配布し、内容確認を行う。そのため、1回目のオリエンテーションには必ず出席すること。		
④ 関連ホームページ			
④ メールアドレス	三上 仁志 sgj4976@fsc.chubu.ac.jp		
④ オフィスアワー			

前画面へ戻る